

学校だより青南

11月号

令和4年11月1日

港区立青南小学校

校長 野口 直樹



開校記念日によせて

校長 野口 直樹

朝夕の寒暖差が大きく、冬が近付いています。

10月18日から20日までの3日間、6年生と共に箱根移動教室に行ってきました。東京より、少し寒くはありましたが、キャンプファイヤー以外予定していた活動を行うことができました。昨年度まで、コロナウイルス感染症拡大防止対策のため宿泊の経験が無かった6年生ではありますが、マナーを守って行動することができていました。「いつでも どこでも 青南の子」の実践ができていることを嬉しく、そして、誇らしく思いました。バスの運転手さんやバスガイドさんにもたくさん褒められました。

11月18日は、青南小学校の開校記念日です。青山小学校の児童数が1,500名を超え、学区を分ける形で、明治39年に青南小学校は開校しました。当時の児童数は、236名でした。開校20周年を迎える頃には、児童数は1,490名を数えるほどでした。当時の資料（青南学報という冊子があります。これは、開校記念日に発行されていたようです。その年の秋までの学校の様子をまとめた学校だよりのようなものです。）に目を通すと、今とは大きく違うと感じる記載がありました。今と違い「時代だな」と思うのは、クラス編成が男女別であったことです。（一部男女一緒でした。）そして、1クラスの人数が一番少ないところで50名、一番多い学級は70名の所属児童がいたことです。現在の2クラス分の児童が一つの教室に入っていたことになります。その中で、暮らしていた児童のたくましさが思われます。また、当時の児童が書いた作文が掲載されていました。綴り方という学習で書いたものだと考えます。なんと鮮やかに朝の情景を書き表しています。当時の6年生児童の感性が大人に近かったことをうかがい知ることができます。その中の作品を紹介します。

今朝 六年 堤 綾子	戸を開けると外は薄暗く 気持ちの良い風が顔にあたって肌寒いほどであった。 はるか東のほうには宵の明星がただ一人淋しうに輝いていた。銀杏の木影に見える三日月の姿も明るくなるにつれてだんだんと薄くなっていた。だんだん夜が明けてきた。いつの間にか宵の明星の姿も何処かへ行ってしまった。今や空には何一つ見えない。空は気持ちよく晴れて太陽の光が四方に満ち満ちていた。
---------------	--

作文以外にも、当時の児童が書いていた毛筆作品や絵なども掲載されていました。当時も今と変わらず展示会が開催されていたようです。

11月17日から19日までの3日間で展示会を開催します。全校児童の図工科で取り組んできた作品を体育館に展示します。

子どもたちの作品には、開校当時と変わらず、一人一人の個性や思いが込められています。体育館いっぱい広がる子どもたちの作品群は、きっと観覧にいらした皆様の心をぐっとつかむと思っています。お忙し中ではあると思いますが、足をお運びください。

11月の生活目標

【みんなで使うものを大切にしよう】

生活指導部

学校で「みんなで使うもの」にはどのようなものがあるでしょうか。図書館の本や遊具、教室の机やイスも当てはまります。今は自分ひとりで使っているものも、昨年使った人がいて、来年使う人がいます。では、どのように使えばよいでしょうか。汚したり壊したりしない、長持ちするように大切にす、あった場所にきちんと戻すなど適切な使い方は様々にあります。次に使う人のことを考えて大切に使いましょう。

11月は、みんなが気持ちよく生活できるよう、ものを丁寧に扱うことの大切さについて指導していきます。ご家庭でも、ものを大切にしていこうなどをお話いただければと思います。また、記名のない落とし物をよく見かけます。お子さんの持ち物に記名があるか、ご確認をお願いいたします。

【開校記念集会・週間について】

特別活動部

11月18日(金)は、青南小学校の116回目の開校記念日です。そのお祝いとして、12月3日(土)は、全校で開校記念集会を、11月24日(木)～12月9日(金)は、開校記念週間を実施します。開校記念集会・週間は、全校児童が青南小学校の歴史や伝統、魅力について知り、青南小学校の児童であるという誇りをもって、これからの青南小学校を築いていこうとする気持ちを高めていくことを目標として計画しています。今年度、開校記念集会は計画委員会と集会委員会で青南小学校の歴史について、青南小学校の良いところ等を発表します。開校記念週間は、全委員会が休み時間やお昼の放送で発表を行い、開校記念を更に盛り上げます。

それぞれの特徴を生かした発表で、青南小学校の歴史と今と未来とを感じられる集会・週間にしていきます。

【 1年 】

1年生は、生活科「あきといっしょに」の学習で、秋祭りに向けて一生懸命取り組みました。まず、秋探しと題して代々木公園へ行き、秋を感じながらどんぐりや松ぼっくりをたくさん拾いました。

拾った秋のものを使い、様々なおもちゃを作って遊びました。どんぐりに穴をあけて作るどんぐりこま、ひもを通して作るけん玉など、友達同士で遊びを共有していきました。その中から「面白い!」と思ったものを秋祭りにお店として紹介し、実際にみんなに遊んでもらおうという形になりました。そこからは、「自分たちだけではなく、お店に来てくれる人たちがどうしたら楽しめるのか」を真剣に考え、遊び方も工夫しようとグループで話し合いながら作る姿が見られました。

そして迎えた当日、保護者の方々や幼稚園、保育園の子どもたちが笑顔で楽しむ場面をたくさん見ることができました。お店の店員として頑張っている姿に、大きな成長を感じることができました。2年生のお店に良い刺激を受けたようで、来年のお店にも期待しててください。

【 3年 】

社会科「店ではたらく人」の学習の一環で、出前授業を行いました。出前授業では、スーパーが実際に行っている「食品ロス」を減らす活動について知り、SDGsと結びつけて考えていました。また、「食育」については、栄養のバランスを考えて様々な食材を摂ることの大切さに気がきました。「給食で好き嫌いをしない」「一口食べる」など、自分たちの食生活についても振り返りができました。

11月は展覧会があります。子どもたちは、展覧会に向けて一つ一つに思いを込めて作品作りをしています。平面作品は「アイスの実」をイメージした個性豊かなアイス、「すてきなお城」は子どもたち夢の世界を表しています。どちらの作品も大変素晴らしく、選ぶのが難しいです。楽しみにしててください。

さて、三年生になってから半年が過ぎました。夏の虫取りでは、公共の場でのマナーや歩行の姿は立派でした。学習でも書く力、聞く力が伸びてきています。成長が著しいヒーローたちですが、秋の終わりにはどんなヒーローに成長しているのでしょうか。今後とも温かく見守っていただけると幸いです。

【 図画工作 】

11月17日(木)、18日(金)、19日(土)に展覧会が開催されます。玄関フロアと体育館を使って展示を行うのは4年ぶりとなります。テーマは『青南ワンダーランド』です。子どもたちの個性あふれる作品が集まると、きっとそこは楽しさと驚きが入り混じる世界になるのでは、と考えました。現在は共同制作にも取り組みはじめ、全学年とも制作に励んでいます。いずれの作品も元はと言えば、たった一枚の紙や、様々な素材の断片でした。子どもたちが、その時々感性を働かせながら、一つ一つ思いを積み重ね、楽しみながら、悩みながら創作したものです。作品そのものだけでなく、どんな思いを込めたのか制作過程も想像しながらご鑑賞いただければ幸いです。会場でお待ちしております。



【 図書委員会 】

図書委員会の主な仕事は、休み時間の本の貸し出しの処理や本棚の整理整頓、図書館がみんなにとって使いやすいものになるための整備です。休み時間の仕事は当番を決め、責任をもって「学校みんなのため」に頑張っています。今年度は、秋の読書月間に合わせ、司書の先生方が準備してくれているイベントのお手伝いも図書委員会でいきます。PRのためのポスターを作ったり、お昼の放送で伝えるための原稿を作ったりして、はりきって仕事をしています。また、開校記念週間で、図書委員会としてどんなイベントを行いたいかみんなでアイデアを出し合い、相談をしました。これまでにやってきたことを参考にしながら、図書館を使い、自分たちも楽しめて来てくれる人たちも楽しめるような内容を考えていました。これからその準備が本格化します。みんなで協力し、進めてほしいと思います。また、毎日の当番活動や図書館整備もしっかりと行うことで、青南小学校の子どもたちが一人でも多く図書館に足を運んで本に親しんでくれるといいなと思います。

【 研究クラブ 】

研究クラブは、一人一人がテーマを決めて研究をしていきます。昆虫の性質や宇宙の構成、液化現象、歴史、SDGs等、様々なテーマがあります。

子どもたちは自身で決めた研究テーマに向かい、本やタブレットを活用して調べたり、検証が必要なものについては実験をしたりしています。

学年末には、研究成果発表を行います。研究成果発表に向かい、自身の研究をより深めるために多くの情報を集めたり、実験をしたり、新たな疑問を見出したりしています。発表の形式も一人一人が工夫し、ノートや模造紙、パワーポイント等、発表しやすい方法を選択しています。

その中で、一生懸命に努力して、生き生きとした表情もみられ、本物の研究者のように熱心に研究に取り組んでいます。

今後どのような研究をしていくのか、楽しみです。

【iPad クラブ 】

iPad クラブでは、iPad を活用して動画づくりに挑戦しています。

自分たちの作りたい動画のテーマによってグループに分かれ、様々なアイデアを実現するために活動しています。

「動画を作る」と口で言うのは簡単ですが、様々な課題があることに、子どもたちはすぐに気が付きました。どんな構成にするか、どんな角度からとるか、セリフはどうするか、どこで撮るのが良いか・・・考えることはたくさんあります。

編集もなかなか難しいものです。悪戦苦闘か・・・と思いきや、編集用アプリの扱いはどんどん上手になっていきます。覚えた操作が、クリエイティブなことにつながっていくのは素晴らしいことです。「こんなこともできる」「あんなこともできる」ということが新しい発想を生み出していきます。これからは楽しみです。